

# 第 12 回 緊急 対応 訓練 実施 報告 書

主催 伊東市ダイバーズ協議会  
協力 伊豆海洋公園

訓練実施年月日 平成18年 3月 6日 (月)

訓練実施地 伊東市 伊豆海洋公園

訓練実施時間 12:10 ~ 16:30

報告書作成者 GO TO THE SEA 横田 雅臣  
富戸ダイビングサービス 西村 周

## 第12回緊急対処訓練実施報告書

- |          |                                              |
|----------|----------------------------------------------|
| 1 実施期日   | 平成 18年 3月 6日 月曜日                             |
| 2 訓練開催地  | 伊東市 伊豆海洋公園                                   |
| 3 訓練実施時間 | 12:10 ~ 16:30                                |
| 3 - 1    | 12:10 集合、参加名簿記入、 IDC 事務局挨拶、来賓挨拶<br>訓練開催者手順説明 |
| 3 - 2    | 13:30 訓練参加者準備、チームミーティング<br>訓練準備              |
| 3 - 3    | 13:45 訓練開始 訓練 1・2 水面救助訓練・水中創作訓練<br>訓練 3 通報訓練 |
| 3 - 4    | 14:45 訓練終了                                   |
| 3 - 5    | 15:10 訓練参加チーム毎のブリーフィング                       |
| 3 - 6    | 15:30 チームリーダーからの報告                           |
| 3 - 7    | 16:30 訓練終了・解散                                |

#### 4 緊急対処訓練詳細

##### 4 - 1 事故発生対処、水面救助と情報の収集

訓練1 水面で救助を要請するダイバーを発見した者から、ダイビングセンターへ通報があり、ダイバー数名が救助に向かう。事故車様態は呼吸あり・意識あり。救急隊の養成を行う。引き上げた時点で、減圧症の疑いがあり、通報内容にこれに加え、現場では酸素の供給を行う想定で、訓練を実施。

訓練2 ダイビングを実施していたグループに行方不明者が発生したとの通報がダイビングセンターにあり、ダイビングセンターは園内放送にて捜索チームへの参加を他のダイバーへ呼びかけるとともに、園内放送で行方不明者の呼び出しを行う。関係各所へ行方不明者発生第1報を入れ、陸上での捜索の継続。水中捜索チームはダイビングセンターの指示により、潜水計画を確認し、捜索。水中での沿う作事に発見したダイバーを引き上げるが、呼吸停止・意識なし。現場で心肺蘇生法と酸素供給を実施。ダイビングサービスは関係各所への第2報を行う。事故者の救急隊への引渡しまでの訓練を実施。

##### 4 - 1 - 1 訓練参加員数および訓練協力

訓練参加者	26事業所	42名
視察	伊東警察署 地域課	1名
	伊東警察署 富戸派出所	1名
	御殿場署 地域課	1名
	伊東市消防本部 対島支署	3名
	下田海上保安部伊東マリンパトロールステーション	1名
取材	テレビ静岡	1名
見学	静岡県ダイバー随協議会	6名
	その他	2名
		全 57名
通報訓練協力	伊東市消防本部	
	伊東警察署	
	下田海上保安部警備救難課	全 3件

#### 4 - 1 - 2 事故発生時対処訓練参加者

事故者およびそのグループ : 一政 直美 三矢信吾

訓練1 水面搜索 : 小林直矢 高澤志穂 黒葛原正之 野々村真生

引き上げ : 内山明美 佐藤栄一 内山健一 米澤和

訓練2 水中搜索 : 西谷政治 三浦早苗 根岸拡也 土屋範幸

水面救助 : 佐野博康 ポトキエリック 大窟浩幸 志村晃央

引き上げ : 訓練1に同じ

訓練1・2 通報 : 堀高子 古屋美和 田村友里 小野寺順子  
久保田昭子 石井千絵

訓練1・2 陸上支援 : 加藤強 鈴木拓郎 西山恒規

監視員 : 加藤強 鈴木拓郎 西山恒規

#### 4 - 1 - 3 訓練内容

訓練1 水面で救助を要請するダイバー発見した者から、ダイビングセンターへ通報があり、ダイバー数名が救助に向かう。事故車様態は呼吸あり・意識あり。救急隊の養成を行う。引き上げた時点で、減圧症の疑いがあり、通報内容にこれを加え、現場では酸素の供給を行う想定で、訓練を実施。

訓練2 ダイビングを実施していたグループに行方不明者が発生したとの通報がダイビングセンターにあり、ダイビングセンターは園内放送にて搜索チームへの参加を他のダイバーへ呼びかけるとともに、園内放送で行方不明者の呼び出しを行う。関係各所へ行方不明者発生の第1報を入れ、陸上での搜索の継続。水中搜索チームはダイビングセンターの指示により、潜水計画を確認し、搜索。水中での沿う作事に発見したダイバーを引き上げるが、呼吸停止・意識なし。現場で心肺蘇生法と酸素供給を実施。ダイビングサービスは関係各所への第2報を行う。事故者の救急隊への引渡しまでの訓練を実施。

上記訓練1・2をシナリオに準じた、現場対処をシミュレーションした。

#### 4 - 2 事故発生時の通報訓練

伊東市消防本部、伊東警察署、下田海上保安部への適時通報を行った。

#### 4 - 3 事故者引き上げ訓練

訓練を2回実施した。

#### 4 - 4 酸素投与

減圧症の疑いのある事故者、および心肺停止の事故者に対し、酸素投与をおこなった。

### 5 訓練実施体制

下記の要員を設定し、訓練の指揮、安全管理、訓練中の事故発生に対する緊急対処要員を配置し、訓練をサポートした。

訓練開催責任者	1名	西村 周	富戸ダイビングサービス
訓練開催責任者補佐	1名	横田 雅臣	GO TO THE SEA
訓練実施チーム統括者	1名	村田 清臣	リーフレイダーズ
訓練実施チーム統括者補佐	1名	横田 雅臣	GO TO THE SEA
記録	1名	富樫 敬	ダイブチーム Es
連絡員	1名	加藤 強	伊豆海洋公園
水中対応	2名	佐藤 修	フォーシーズンダイバーズ
		志村 晃央	城ヶ崎 インディーズ
水面对応	1名	林 宗行	むねエンタープライズ

### 6 訓練への協力をいただいた関係各所

#### 6 - 1 伊東市消防本部

- ・ 通報訓練へのご協力
- ・ 訓練当日、訓練地伊豆海洋公園への救急車両1台
- ・ 救急隊員の視察、派遣

#### 6 - 2 伊東警察署 地域課 ならびに 富戸派出所

- ・ 通報訓練へのご協力
- ・ 伊東警察署地域課課長ならびに富戸派出所からの署員派遣・視察

#### 6 - 3 御殿場警察署 地域課

- ・ 御殿場署員の視察、派遣

6 - 4 下田海上保安部 警備救難課

- ・ 通報訓練へのご協力

6 - 5 下田海上保安部 伊東マリンパトロールステーション

- ・ 隊員の視察・派遣

6 - 6 伊豆海洋公園

- ・ 訓練参加者の施設利用へのご協力
- ・ 訓練時使用タンクのご提供

6 - 7 富戸地区

- ・ 訓練案作成 横田 雅臣 GO TO THE SEA

7 謝辞

7 - 1 伊東市消防本部 殿

公務中にもかかわらず、訓練実施にあわせ署員による訓練視察および救急車両の配備、通報訓練へのご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 2 伊東市消防本部 対島支署 殿

公務中にもかかわらず、訓練実施にあわせ署員による訓練視察および救急車両配備のご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 3 伊東警察署 殿

公務中にもかかわらず、訓練実施にあわせ署員による訓練視察ならびに通報訓練へのご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 4 御殿場警察署 殿

訓練実施にあわせ署員による訓練視察のご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 5 下田海上保安部 警備救難課 殿

公務中にもかかわらず、通報訓練へのご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 6 下田海上保安部 伊東マリンパトロールステーション殿

公務中にもかかわらず、訓練の視察を頂き、心より御礼申し上げます。

7 7 伊豆海洋公園 殿

営業日にもかかわらず、地先利用、施設利用へのご協力および、訓練時使用タンクのご提供を頂き、心より御礼申し上げます。

7 - 8 訓練参加者・見学・取材 各位

ご多用にもかかわらず、訓練への多数のご参加を頂き、心より御礼申し上げます。

8 訓練総評

第12回緊急対処訓練が、参加者の事故、怪我などの問題がなく、終了できたことに対し、ご参加いただきました皆様のご協力の賜物と、感謝いたします。

下記に、参加いただいた方々、ご視察をいただいた方からの総評を記しますので、ご確認ください。

訓練1 水面搜索

- ・ 曳航時のリーダーを決めていなかった。
- ・ 器材をはずす手順を打ち合わせておいた方がよい。
- ・ 同行者にも状況を聞いておけばよかった。
- ・ 搜索、曳航の人数には問題なかった。

訓練1 引き上げ

- ・ リーダーを決めていなかった。
- ・ 引き上げる場所、器材の位置などの確認が十分でなかった。
- ・ 事故者に対する声かけ、チーム内に対する声かけが十分でなかった。
- ・ 対処時間の確認・記録が十分でなかった。
- ・ 引き上げ後、周囲のヤジウマのコントロールを考えなければいけないと感じた。  
事故者が女性の場合は特に必要に思う

訓練2 水中搜索チーム

- ・ 水面に浮上してからの、確認、声かけが足りなかった。
- ・ 発見時や浮上時などの対処時間の確認・記録が十分でなかった。
- ・ 搜索メンバーの当日のダイブプロフィールを確認し搜索の潜水計画に反映しなければいけない。
- ・ シグナルフロートの利用で、水中での事故者の様態等を陸上の支援要員へ伝える手順が

考えられるのではないか。

- ・ 捜索ロープの長さ決定は、水中へ入った時点で決定したほうがよい。

## 訓練2 水面救助

- ・ 事故者のウェイトベストが外しにくかった。
- ・ 曳航時に、3名で対処したが、2名は曳航することに専念し、事故車の足を押す1名が引き上げ場所への誘導を行う事が、時間短縮になる。
- ・ 干潮時の波打ち際での引き上げは困難。  
担架の受け取り、引き上げ者グループとの声かけが必要  
曳航してきたグループの器材・フィンはいつ外す？
- ・ 干潮時に波のある場合、引き上げ者の転倒などで、担架にのせた事故者の頭部が危ないと思われる。事故者の後頭部を守るためにクッションが必要と感じた。

## ダイビングセンター通報

- ・ 現場からの情報には、「名前」「性別」「年齢」が必ずほしい。
- ・ インターホン等、通話内容は、受けているものが「復唱」すると、周囲にも内容を伝えることができる。
- ・ 通報・連絡ははっきりと大きな声で行うこと。
- ・ それぞれのダイビングポイントに応じた手順を確立し、情報交換を行うとよいのではないか。

## 事故者側

- ・ 事故者の同行者は、「あわてている・動転」「つかれている」はずなので、声をかけてリラックスさせる姿勢をとらせるなどの気遣いが必要。

## 伊東警察署

- ・ 現場では馴れも必要。このような訓練に参加することで「意識で付け」とともに、適切な判断が行えるように、日頃から意識して考える習慣を持ってほしい。

## 下田海上保安部 伊東 MSP

- ・ 現場では、全体の状況を把握している者がいて、よかった。
- ・ 実際の救助では決して「無理をしない」こと、二次事故の無いように気をつけて行うこと。

## 伊東市消防本部 対島支署

- ・ 人工呼吸を行う時には、気道確保とマスクの装着、バッグの操作を2人で行うほうがよい。
- ・ 水面から事故車を引き上げたら、すぐに気道を確保することが必要。



- ・ 事故者の頸動脈で、脈拍の確認をおこなう。
- ・ AED の使用時は、女性の場合プライバシーへの配慮も行うこと。

#### 御殿場署 地域課

- ・ ダイビング事故での死亡のほとんどは
  - 1 水中でのロスト
  - 2 若いインストラクターによって発生している。
- ・ 同行者のグループを、いかに自分のコントロール下に置くかを必ず検討し、実施してほしい。  
同行者には、離散した場合の手順をブリーフィングし、同行者への手順の徹底を指示するとともに、自分も手順を必ず実行すること。  
死亡事故者はエアーを残していることが多いので、離散した場合、双方全員が直ちに浮上することが大切。
- ・ 普段の心構えをしっかりと作り事。これを行うことで実際のトラブルへの対応力を高めなければならない。
- ・ ダイバーの「状態」を見抜く力をつけることが、事故防止につながる。

との総評等をいただきました。

次回の訓練には、これらの事項を反映させ、より良い訓練が実施できるよう努力することをここに明記します。

ご参加いただいた、皆様も平素の営業へ反映し、事故防止につなげていただきたいと願っております。  
最後に、参加された各事業所皆様の、ご健康とご繁栄を祈念いたします。

#### 9 添付資料

- 9 - 1 訓練時の写真
- 9 - 2 訓練参加者名簿